

## 令和元年度 奈良県教育長賞

「税について」

大和高田市立高田商業高等学校 一年 篠本 弘太郎

今まで税金についてあまり考えた事はなく、買い物で支払う消費税でさえ、払いたくないと考えていました。この作文を書くために、国の税金の使い道を調べてみると、4位が公共事業関係費、5位が文教及び科学振興であるとわかりました。

僕は、夏休みに、通学用自転車で大阪の箕面まで行きました。小学二年生の時から、ボーイスカウトに入っていて、その活動の一つとして、三日間キャンプをしながら往復してきました。その時の道は、どこも整備されていて、暑さと坂道を除けば快適に走ることができました。

それは、税金4位の公共事業関係費のおかげだと今、振り返ってみて思います。ボーイスカウト活動をしていると、公園のトイレや学校施設を無料で借りたりもします。ボーイスカウトのモットーの一つは「質素である」という事なので、こうして整備された道やさまざまな施設を負担なく使える事は非常にありがたいことです。

将来、仕事をしてたくさんお金を稼ぎたいと考えてはいますが、自分だけが豊かになっても環境が悪ければ、心が豊かにはなれません。給料から必要な税金を支払って、みんなで力を合わせて住みやすい暮らしをしたいと思います。税金は、みんなのためにあるのだから、大切な事だと実感しました。ボーイスカウト活動はずっと続けるので、楽しく気持ち良く活動できるように、大人になったら、税金をしっかり納めたいと思います。

また、5位の文教及び科学振興費の中には支給される教科書代や先生方の給料も含まれるとありました。家庭の貧富に関らず、同じ教科書が配られて平等に先生に指導してもらえるのはこのおかげです。僕の母が民生委員をしていて、最近、子供の貧困がますます問題になってきていると教えてくれました。もしも貧しい外国のようにこの費用が十分でなければ、裕福な家庭の子供しか勉強できず、日本全体がどんどん貧しくなっていくでしょう。僕は未来のためにこの費用が一番大切だと思います。先生方の給料も多くして、子供それぞれがしっかりと、能力を発揮できる教育をしてほしいと思います。そうすれば納税金額も増え日本がもっと豊かになっていくと思います。